

船箆笥の研究

小泉和子著

▶A5判・400頁／定価6,300円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1503-4

2011年5月刊行

近世海運において船乗り達が船内に持ち込んで使っていた収納家具、船箆笥。本書はその成立から終息までを歴史的に考察し、デザインの形成を検証の上、その本質を明らかにする。様式史としてではなく、船箆笥自体を歴史を語る史料として試みた意欲的な一書。

(口絵カラー4頁・モノクロ4頁ほか本文挿入図版多数)



※ 内 容 目 次 ※

第1章 船箆笥とは何か

第1節 船箆笥の種類と形

第2節 近世海運と廻船

近世海運の成立と展開／廻船の乗組員と文書

第3節 船乗りの持具

浦証文からみた船乗りの持具／浦証文からみた懸硯の重要性

第4節 船箆笥の呼称

浦証文と「指掌録」にみる船箆笥の呼称／箆笥という言葉

第2章 船箆笥の様式形成と豪華形の出現

第1節 船箆笥の様式形成

船箆笥の墨書／船箆笥の歴史的変遷概観／懸硯・帳箱・半櫃の様式形成

第2節 様式変遷と豪華形の出現

懸硯・帳箱・半櫃の様式の変遷／豪華形の出現

第3章 船箆笥の地域的差異と産地

第1節 船箆笥の地域的差異と豪華形船箆笥の集中地域

第2節 豪華形船箆笥の産地—その一・佐渡小木湊—

時期と製造場所／小木湊の都市的発展／小木湊における船箆笥製造の開始／小木湊における船箆笥業の発展

第3節 豪華形船箆笥の産地—その二・出羽酒田湊—

酒田製の船箆笥の特徴／箆笥調査からみた酒田の船箆笥製造／職人調査からみた酒田湊の船箆笥製造／酒田における船箆笥製造の状況／酒田湊の歴史と船箆笥製造

第4節 豪華形船箆笥の産地—その三・越前三国湊—

三国湊にみられる船箆笥／箆笥調査からみた三国湊における船箆笥製造／職人調査からみた三国湊における船箆笥製造／三国湊の歴史と廻船業

第5節 船箆笥の大産地として的小木湊

小木湊の地理的条件／小木湊の歴史的条件

第6節 実用形船箆笥の産地—その一・泉州堺—

『毛吹草』にみる指物・櫃と懸硯／堺における中浜と指物屋／堺湊の繁栄／堺と懸硯

第7節 実用形船箆笥の産地—その二・大坂—

阿波座の指物／大坂の歴史と阿波座／地誌類にみる大坂の指物業／船箆笥産地としての大坂

第8節 実用形船箆笥の産地—その三・江戸—

京橋区南金六町と船箆笥／江戸京橋一帯の歴史と金六町／京橋金六町の住吉屋と紀州／豪華形船箆笥産地と実用形船箆笥産地の関係

第4章 豪華形船箆笥と北前船

第1節 運賃積船と買積船

利潤の大きな買積船／乗組員の給料／船箆笥の価格／買積船と船箆笥

第2節 豪華形船箆笥の展開と買積船の活発化

北前船の発展／船箆笥とは何だったのか—まとめにかえて—

〈図版篇〉

基礎資料 年代判明の船箆笥データ (204点・写真掲載)
年代不明の船箆笥データ

こいずみ かずこ……1933年東京生まれ。女子美術大学芸術学部洋画科卒。東大工学部建築学科建築史研究室で日本家具・室内意匠史を研究し工学博士号。昭和のくらし博物館館長。家具道具室内史学会会長。【著書】『箆笥』1982年、『室内と家具の歴史』1995年、『和家具』2005年 ほか。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 【2011年6月27日より左記に移転】 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	船箆笥の研究	本体6,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1503-4	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

祈りの文化 大津絵模様・絵馬模様

信多純一著

江戸時代から現在まで近江大津追分にて作られ、手軽な土産として全国津々浦々の人々に愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰・祈り・教訓そして遊びの画題は多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味などを多くの図版をあけて解説した大津絵事典。

▶B5判・178頁／定価3,675円

ISBN978-4-7842-1425-9

※花洛のモード きものの時代

京都国立博物館編

京都国立博物館特別展図録の増補決定版。「きもの」の美とはなにか―桃山から江戸時代を通じて服飾の中心となった「きもの」に焦点をあて、当時ファッションの発信地であった京都で人々が何を装い、どのような美を求めたかを豊富な図版を通してその諸相をあかす。

▶A4判・550頁／定価26,250円

ISBN4-7842-1072-5

金唐草史の研究

徳力彦之助著

1470年頃、ルネサンスの最盛期のフィレンツェで生れた金唐草。本書は金唐草の発祥以来の歴史、各国別の金唐草の特色、技法を網羅し、ルネサンス・ロココ・バロック期を中心とする豪華絢爛な貴重な図版を多数収録した豪華本である。皮革工芸家、染織工芸家座右の書。

▶B4判・200頁／定価36,750円

ISBN4-7842-0267-6

日本産業技術史事典

日本産業技術史学会編

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づけ、日本の産業技術史を俯瞰する。大項目には3ないし4頁の総説をおき、日本産業技術の流れを把握することができる「読む事典」。総説中にゴシックで取り上げた関連する重要項目を小項目として配列し、個別項目に関する知識を分野全体の展望との関連において示す。

▶B5判・550頁／定価12,600円

ISBN978-4-7842-1345-0

近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編（藤田治彦責任編集）

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。

▶A5判・336頁／定価3,045円

ISBN978-4-7842-1438-9

応用美術思想導入の歴史

天貝義教著

「ウィーン博覧会より意匠条例制定まで―「博覧」「伝習」「勲業」を目的としたウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勲業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、応用美術（＝美術を工業に利用する）思想がいかに明治期の美術・工芸界において指導的役割を果たしていったかを明らかにする。

▶A5判・400頁／定価7,875円

ISBN978-4-7842-1505-8

祭りのしつらい 町家とまち並み

岩間香・西岡陽子編／京極写真

祇園祭・天神祭をはじめ、城端（富山県）や倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。

【内容】座敷を飾る／屏風祭の戦後60年／祭りの住文化とまちづくり／都市祭礼の最前線 など

▶B5判・224頁／定価2,310円

ISBN978-4-7842-1360-3

壁紙のジャポニスム

松村真理著

本書では欧米に渡った日本の装飾紙の調査、後に大きな影響を与えたシェノーの日本美術論も踏まえ、19世紀後半から20世紀前半にわたる壁紙のジャポニスムをそのデザインの実例にそってさぐる。

▶A5判・240頁／定価3,360円

ISBN4-7842-1098-9

※壬生狂言古衣裳

松浦俊海監修／野上俊子 他 編

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳のほとんどは、庶民が身近な死者の菩提を弔うためにその生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。制作年代を知ることがむずかしい染色資料にあって墨書年から制作年の下限を推定できるこれらの衣裳は、きわめて貴重な存在である。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

▶A4判・300頁／定価60,900円

ISBN4-7842-0721-X

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和雄編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、併せて文化遺産としての工芸芸術を紹介。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆者による全34篇。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。

▶A4判・150頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1087-3

日本近世染織業発達史の研究

貫秀高著

近世において大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書はそれに先立つ中世の状況についての概観から始まり、織物と染色の2篇に分けて従来とは異なった視点――生糸の輸入状況や織物業の輸入依存からの自立化の発展過程、技術の伝播の具体像・発達など――で詳しく分析した労作。

▶A5・780頁／定価12,600円

ISBN4-7842-0852-6

※アーツ・アンド・クラフツと日本

デザイン史フォーラム編（藤田治彦責任編集）

アーツ・アンド・クラフツ運動は専ら鑑賞を念頭に制作される美術工芸とは異なる「生活」のための工芸運動で、また社会改革をめざすデザイン運動でもあった。この運動と日本との関わりをさまざまな視点から論ずる。

▶A5判・304頁／定価3,045円

ISBN4-7842-1207-8

天神祭 火と水の都市祭礼

大阪天満宮文化研究所編

平成14年の菅原道真公1100年祭を記念して日本三大祭りのひとつである「火と水」に彩られた天神祭の歴史とすがたを豊富な図版と8篇の論考で多面的に明かす。カラー図版には天神祭図巻（吉川進）の全巻（初公開）のほか近世の屏風・掛幅・浮世絵から近代作家の作品そして復元された天神丸・御迎人形などを掲げ本文中にも関係図版を多数収録。

▶B5判・200頁／定価2,730円

ISBN4-7842-1092-X

口頭伝承と文字文化 文字の民俗学 声の歴史学

笹原亮二編

柳田国男以来、民俗学における文献史料の扱いについて様々に議論がなされてきた。「口頭伝承を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるが明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じた意欲作。

▶A5判・444頁／定価7,350円

ISBN978-4-7842-1447-1

上村六郎染色著作集〔全6巻〕

日本における染色学界の大先達であり、最長老である著者の永年にわたる研究の集大成。科学という専門を基に、古い文献の渉猟、日本はもちろん中国・インド・中近東・ペルシヤ・インドネシア等の広汎な研究は世界的にも評価されているものである。現代染職家にとって必須の書。

- 第1巻：東方染色文化の研究／民族と染色文化 6,825円 ISBN4-7842-0259-5
- 第2巻：上代文学に現れたる色名・色彩並に染色の研究／日本上代染草考 6,300円 ISBN4-7842-0260-9
- 第3巻：萬葉染色考察／萬葉染色の研究 6,825円 ISBN4-7842-0261-7
- 第4巻：村々の民俗と染色 6,825円 ISBN4-7842-0262-5
- 第5巻：村々の民俗と染色／学芸余談 6,825円 ISBN4-7842-0263-3
- 第6巻：ハワイ・アメリカ民芸の旅／旅つれづれ／越後・佐渡民芸の旅／民芸雑話／丹波布 6,825円 ISBN4-7842-0264-1

▶A5判・平均550頁／揃定価40,425円

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。